

地方  
小出版

情報誌

# アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター  
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20  
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

## 人生の折り返し点を迎えた読者に もう一度波風立てませんかと呼びかけます

文・吉川和之

便利さ、安さ、豊かさ(物質的)を追求めるあまり、価値観が標準化され、人も物も町も個性を失いつつあります。そんな中で、自らの意志によって地場産業や伝統文化など、地域のアイデンティティーを守ろうと努力する人々がいます。

こだわりの店や物づくり、後世に伝えたい生活文化、ライフワークとしての雑学や趣味。NAGIは人を切り口に地域の宝を掘り起こし、三重県を刺激する大人向けのローカル誌です。

誌名の「凧」は、日常の荒波から逃れ、心穏やかなひとときを、という願いとともに、人生の折り返し点を迎えた読者に、居心地のいい凧から抜け出して、今一度波風を立てようと呼びかける逆説でもあります。

### 自主リストラします

十二年前の創刊時、私は三十八歳でした。ちょうど世紀終焉の年で、戦後復興から高度経済成長を経て、バブルまで上り詰めた右肩上がりの経済が、幻想だったことようやく気付かされ、日本中が喪失感に満たされていた時代です。

大量生産、大量廃棄、スクラップ&ビルド、ファストフードのカウンターカルチャーとして、「スローフード」や「スローライフ」といったフレーズが流布し出した頃でもあり、人々の価値観は二極化を始めていました。

最後まで勝ち組でいられると信じて、相変わらず二十世紀的な生き方を続ける大多数の人々と、地球規模で物事を考え、身の丈に合ったライフスタイル

へと踏み出す人々。

前者は物質的な豊かさを、後者は精神的な豊かさを望む人とも言えるでしょう。三重には、後者に向けた情報誌はありませんでした。人口わずか百八十六万の県で、あえてニッチな市



場に打って出る人なんかいません。だったら自分がやってやろうと思いました。

私は大学を出てから、地元・伊勢の印刷会社で編集やコピー書きをしていたところを、旅をテーマにするローカル出版社に誘われて移籍しました。五人目の社員として入ったその出版社は、七年半後に辞めるときには十数人の大所帯となっていました。

伊勢には二十年に一度、神宮式年遷宮というパブルが訪れます(今回は平成二十五年)。私の在籍時には、平成五年の遷宮に向けて、おかげ横丁、鳥羽

水族館新館、志摩スペイン村、伊勢戦国村などが相次いでオープン。高速道路が通じ、ホテルも次々と新築・増築され、今では信じられないような好景気だったのです。

周囲の勢いに乗って、発行人の社主が増ページを繰り返す、単行本を乱発する中で、私は一人冷めていました。こんな時代がいつまでも続くはずはないと。

地域の伝統文化を大切にしてきた雑誌が、デッチ上げのテーマパークを特集

集したり、増え過ぎた人件費を賄うため、広告スペースを増やし続けるのに耐えられなくなった私は、ある日彼に問いかけました。

「あなたはカロラを造りたいのか。それともフェラーリを造りたいのか」と。

明確な答えは返ってきませんでした。彼はフェラーリをカロラ並みに量産できると思ったのでしょうか。もうこの人の下では働けないと悟った私は、「自主リストラします」という言葉を残して会社を去ります。

フリーとなった私は、編集や制作の仕事を受け負う傍ら、友人のカメラマンと自費出版のプロジェクトを立ち上げました。伊勢から中辺路(和歌山県)まで歩いて、熊野古道の写真集を作るというもの。

仕事では余計な要素を付加されればかりなので、極力シンプルに仕立てようと、広告無しのモノクロで、ページ毎のキャプションは記載せず、フォントも最小限に。こうして出版した写真集『くまのみち』(A4百二十頁・二千円)は、二千五百部を印刷し、九割以上を

販売しました。熊野古道が世界遺産となったのは、発刊から五年後のことです。

### 旬にこだわらず普遍的な内容を

『くまのみち』で手応えを感じた私は、そろそろ自分で媒体を立ち上げる時ではないかと感じました。それは、既存のローカル誌にはない、地域経済を地球環境とリンクさせて考える哲学を持った雑誌にすべきだと。

コンセプトを固め、誌名や装丁、特集やシリーズを考えましたが、とても一人で賄えるボリュームではありません。そこへ、前職場の後輩が第二子出産のため育児退社したとの噂を聞きつ

け、新雑誌創刊の計画を話したところ、協力してもらえることになり、NAGIは世紀末の海へ船出することができました。その女性が、現編集長の坂美幸です。

創刊号の特集「沢村栄治と西村幸生」をはじめ、建築や歴史物、バイク・クルマ趣味のコーナーなど、当初は私の色が濃かった誌面は、やがて食や物づくりといった彼女のスローな志向が徐々に反映されるようになり、今では特集や単行本毎に、どちらかの色にくっきりと染まるようになりました。

最近刊の47号特集「松浦武四郎の歩き方」は私が、単行本「三重のスロー食堂」は坂が受け持ち、それぞれのテイストが反映されています。社員は、あと新人が一名のみ。

パソコンやインターネットの普及によって情報革命がもたらされた今、それらが扱う情報は国境を越えた膨大な量で、誰もがリアルタイムに手に入れることが出来ます。しかし、電波に乗って運ばれ、次々と更新されていく情報は、ほとんどが使い捨てです。

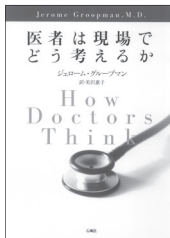
常駐三名のウサギ小屋編集室に、タイムリーに情報を更新する器量はありません。旬がない分、いつまでも手元に置いて、折に触れて読んでもらえる普遍的な内容を心掛けています。一冊百頁七ミリの季刊誌なら、書棚のスペースもとりませんから。

(よしかわ かずゆき / NAGI 発行人・月兎舎代表)

## 新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

### 『医者は現場でどう考えるか』 ●ジェローム・グループマン / 美沢恵子訳



医師の診察を受けながら、自分の訴えを正しく理解してくれているのだろうか、不安な思いをすることがよくある。15年間に30人の医師にかかり、諦め切っていたアンは、ボーイフレンドに勧められるまま惰性的ように出かけた病院で、あなたの物語をあなた自身の言葉で聞きたいと虚心に語りかける医師と出会い、絶望の淵から立ち上がる力を得る。ハーバード大学病院で若い医師

を教育することになった著者は、様々な臨床の経験から、医師が陥り易い、第一印象に従うという傾向に起因する思考のバイアスに着目する。優れた医療ルポルタージュであり、かつ、コミュニケーション論としても実に興味深い。

◆ 2940円・A5判・311頁・石風社・福岡・2011/10刊・ISBN978-4-88344-200-3

### 『わもん 聞けば叶う』 ●薮原秀樹著

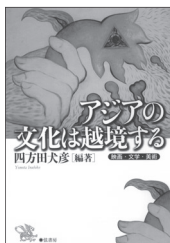


人材育成コンサルタント会社の経営者による自己啓発書、といった本なのだが、願望成就のための安易な方法論として読むべきではないだろう。著者の方法は、対人関係の場面において、聞き手が話し手の存在のすべてを尊び敬い(「絶対尊敬」)、話し手の言葉に批判はおろか助言すらも差し控え、相手のあるがままの姿を心の湖面に映し出して受け入れ(「完全沈黙」)、ただ「聞く」こ

とに徹するというユニークなもの。著者は、それを「わもん(話聞)」と名付けた。その到達点として提示されている「無意識共同体」や「話聞一如」といった概念は、今後の展開によっては新たな日本生まれの思想となる可能性を秘めているよう。

◆ 1575円・四六判・219頁・文屋・長野・2011/9刊・ISBN978-4-9905552-3-8

### 『アジアの文化は越境する ー映画・文学・美術』 ●四方田犬彦著



いまアジアでは日本の文化に加え、華流、韓流といった大衆文化現象が起り、文化の相互浸透が速まっている。本書は、これらアジア各地の大衆文化について、福岡の地にタイ、香港、韓国、日本の作家や文化研究者が集い開いたシンポジウムの報告である。

お化けや幽霊はアジアに共通するがヨーロッパやイスラム圏にはないとか、「ドラえもん」や「お

しん」、Kポップ(韓流文化)、村上春樹の小説等を例に挙げて、アジア各国への流入と受け止め方の違いが紹介される。そして従来の欧米人的な目線ではなく、アジア人自身から見てはたしてアジア的なる文化とは何か、それは存在するのかといった本質に迫る。

◆ 1785円・四六判・161頁・弦書房・福岡・2011/11刊・ISBN978-4-86329-065-5

# 売行良好書

期間：2011年11月16日～12月15日

[出荷センター扱い] ※税込み価格

- (1)『医者現場でどう考えるか』2940円・石風社 (2)『未来ちゃん』2100円・ナナロク社 (3)『希望』1890円・編集工房ノア (4)『言葉のフーガ 自由に、精緻に』2520円・四明書院 (5)『未踏の野を過ぎて』2100円・弦書房 (6)『本土の人間は知らないが、沖縄の人はみんな知っていること』1365円・書籍情報社 (7)『わたし、少しだけ神さまとお話できるんです』1470円・文屋 (8)『だれか来る日に、便利なおかず』1260円・ベターホーム出版局 (9)『釜ヶ崎のスズメ』2520円・洛北出版 (10)『僕は本をつくりたい。』1365円・ノンカフェブックス (11)『T O S H I K Oらくがき帳』1260円・ぶんしん出版 (12)『3.11を超えて』1260円・無明舎出版



[三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書] ※税込み価格

- (1)『東京かわら版 12月号』420円・東京かわら版 (2)『奥多摩東部登山詳細図 全58コース』800円・吉備人出版 (3)『医者現場でどう考えるか』2940円・石風社 (4)『未踏の野を過ぎて』2100円・弦書房 (5)『未来ちゃん』2100円・ナナロク社 (6)『尾張織田氏』3675円・岩田書院 (7)『改訂増補 近世栃木の城と陣屋』1995円・随想舎 (8)『言葉のフーガ 自由に、精緻に』2520円・四明書院 (9)『酒とつまみ 14号』400円・酒とつまみ社 (10)『素数表 150000』375円・暗黒通信団

[ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書] ※センター出荷データより/税込み価格

- (1)『医者現場でどう考えるか』2940円・石風社 (2)『未来ちゃん』2100円・ナナロク社 (3)『釜ヶ崎のスズメ』2520円・洛北出版 (4)『未踏の野を過ぎて』2100円・弦書房 (5)『見て解るイタリア語』3675円・イタリア会館出版部 (6)『奥多摩東部登山詳細図 全58コース』800円・吉備人出版 (7)『高尾山・景信山・陣馬山登山詳細図』735円・吉備人出版 (8)『世界の本屋さん見て歩き』2520円・出版メディアパル (9)『足と靴とインソールのお話』315円・ダイナゲイト (10)『バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑』2730円・北海道大学出版会

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。  
本と出版流通のページ：<http://neil.chips.jp/>

## トピックス — ★★

### ▼セブンネットショッピングで郷土史専門コーナー

ネット書店のセブンネットショッピング(旧セブン&ワイ)が、サイト上で展開するこだわり専門店内に、「地方史郷土史専門店」(仮称)を常設することになりました。当センター取扱の地方出版物の多くが、ここに網羅されることになると予想されます。サイト上での展開のため中身5ページ分が閲覧できるよう、現在各出版社さんにお問い合わせをしているところで、地方本郷土本がより買いやすくなることと思います。2012年1月中旬には開店となるよう準備が進行中です。

### ▼日本の職人展のお知らせ

2011年12月29日(木)～2012年1月4日(水)まで、東武百貨店池袋店8階催事場(1～3番地)にて、催事「日本の職人展」が開催され、その中で「小さいモノ特集/豆本コーナー」が設けられることになりました。豆本手作りの人気アーティスト15名のオリジナル豆本作品が会場になり、各日6名の作家が来場する予定のこと。場内では実演販売も行われ、日本豆本協会代表で紅梅堂主人の田中菜さんがコレクションする昭和時代の名作豆本や豆本づくりの工程がわかる展示もされます。興味のある方は是非覗いてみてください。

## 郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。


◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。

◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。

★地方・小出版流通センター

FAX: 03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



# 三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

**神保町本店 4階**  
**地方出版・小出版物フロア**

営業時間 10:00 AM～8:00 PM  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1  
TEL. 03-3233-3312(代)  
URL: <http://www.books-sanseido.co.jp>

営業の  
ごあんない

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

